

大好き！絵本

初瀬 恵美



『だいじょうぶ
だいじょうぶ』
作・絵：いとう ひろし
出版社：講談社

保育園で長年働いてくださった船本さん（享年70歳）が、突然の事故でご逝去されました。前日まで、一緒に食事をして掃除をして、畑の話をしてくださっていました。そんな当たり前の毎日が、これからもずっと続くと思っていました。

しかし、急なお別れが突然やってきました。信じられない、信じたくない、もう一度会ってお話したい、そんな思いでいっぱいになりました。しかし、現実は残酷です。もう二度と会ってお話することはできません。「こんなに悲しくて、これからどうしよう」と思っていた時、ふと船本さんの「大丈夫！大丈夫！」という声が心の中に響きました。夏の暑い日や、冬の寒い日に外の畑仕事など働きすぎることを心配して「大丈夫ですか？無理しないでください。」と声をかけるといつも笑いながら「大丈夫、大丈夫！」と力強く、元気よく返事をしてくださっていました。

前置きが長くなりましたが、船本さんが残してくれた大切な言葉にちなんで今月は『だいじょうぶ だいじょうぶ』という絵本を紹介したいと思います。この絵本に登場するおじいちゃんと孫とはずいぶん立場もシチュエーションも違いますが、言葉の持つメッセージは近いものがあります。

孫の少年（ぼく）が赤ちゃんに近く、おじいちゃんが今よりずっと元気だったころ、二人は毎日のようにお散歩を楽しんでいました。そして、散歩しながらぼくの世界はだんだん広がっていったのです。世界が広がると新しい発見や出会いもありましたが、困ったことや怖いことにも出会うようになりました。そんなとき、おじいちゃんは『だいじょうぶ だいじょうぶ』と言って、温かくぼくのことを支えてくれました。そのことによって「このよのなか そんなに わるいことばかりじゃない」と学び成長していきます。時は流れ、おじいちゃんは年をとりました。病気で寝込むおじいちゃん。そのおじいちゃんに、ぼくは……。言葉や、しぐさが子どもの心を育み、心の支えになることを感じさせてくれる絵本です。

船本さんやこの絵本の中のおじいちゃんが言っていた「だいじょうぶ だいじょうぶ」という言葉は弱った心や逃げ出したくなる現実に、前を向く力強さを与えてくれる、温かい言葉だとあらためて感じました。私も子どもたちの記憶に残る声で「だいじょうぶ だいじょうぶ」と伝えられる人になりたいと思います。そして、心を育んだり、支えとなる一助になることができればなと思いました。

誕生日おめでとう

